

名古屋大学物性若手グループ

サブゼミ - 物性基礎Ⅰ

テ ー マ 二次元系における相転移

講 師 氷上 忍

参加人数 約 80 名

内 容

28 日 論文紹介 Kosterlitz, Thouless

J. Phys. C 6 (1973) 1181-1202

J. Phys. C 7 (1974) 1046-1060

(topological order について)

29 日 論文紹介 Zittartz

Z. Physik B 23 (1976) 55-62

(連続次数相転移について)

30 日 その後の発展, 展近の話題等について氷上先生に話していただきました。

(XY model, clock model, 2D-melting, universal theory, commensurate-incommensurate transition, metal-insulator transition)

サブゼミ - 物性基礎Ⅱ

「巨視的秩序の形成

— 非平衡開放系の統計力学 —」

講師 京大・理 蔵 本 由 紀

世話人 名大・工 吉 田 宇 一

海老原 俊 夫

今年のサブゼミは若手の研究発表の場とした。発表者及びその題目は以下の通り。

(発表順)

- 大同寛明 (京大・理D2) 「周期的外力を受けた化学反応系の熱的ゆらぎ」
川村 光 (東大・理D1) 「A Theory of Hard Disk Transition & Melting」
島田一平 (日大・理工) 「統計力学と力学系の理論
ーローレンツ力学系の不規則運動をめぐってー」
有光敏彦 (東大・D3) 「Exact Treatment of Damping theory for coupled
two systems in contact with Each Reservoir of Dif-
ferent Temperature」

最後に蔵本先生に『巨視的秩序の形成』についてB・Z反応系の話などをして頂いた。
研究発表形式については、今後も続けたいと好評であった。ただ、今回に限って言えば準備不足のため、必らずしもテーマに沿った内容に統一できなかったことや、他の行事との関係で時間不足が生じた。今後の課題としては、出来るだけ参加予定者にレジメを配ることや、発表形式をとる場合のチューターの役割を明確にしておく等の点がある。また、最終日にコンパの場を借りてカリキュラムなどMC層教育について若干意見交換したが、これはきちんとした時間を設けるべきと思われる。参加者数は、3日間を通して平均して70名前後とあり、テーマごとに分割することもある。

最後に、場所、時間等悪条件下で積極的にゼミの成功に貢献して下さった講師の蔵本先生をはじめ研究発表者の皆さんに心からお礼を申し上げます。

サブゼミ ー 低温

「核断熱消磁」

講師	東大・物性研	石 本 英 彦
世話人	東大・物性研	高 松 洋 子
		中 泉 明 彦